「有明の月」夜が明けても見える月

対馬市厳原町にある有明山（558m）は漁師にとっては山立て（海の上で複数の山を目印に自船の位置を知る方法）に使う頼りにしている山なのです。「有明もたれ」とか「有明出し」とか魚釣りポイントがたくさんあります。GPSが無い頃は船の位置を説明するのに有明山が見えるか見えないかでその船の大体の位置が分かったそうです。

㊽観音もたれ、観音岳がもたれてる場所ってことですけど、さて観音岳は何にもたれているでしょう。

mob会員へのお誘い
応援会員の年会費と返礼品の回数

Sコース・ガヤモバ海
120,000円/年 4回

Gコース・ガヤモバ土
30,000円/年 2回

Aコース・ガヤモバ水
10,000円/年 1回

振込先
九州信用漁業協同組合連合会
長崎統括支店（県コード9489 店番004）
普通口座　口座番号 5100113
特定非営利活動法人賀谷藻場保全会

※NPO法人賀谷藻場保全会の活動は応援団体であるmob会員の皆様の年会費にて成り立っております。

https://gayamoba-2.jimdosite.com/

gayamoba

@gachimoba

gaya.mob

gayamob

0920-55-0246

gayamobahozenkai
@gmail.com

当パンフレットは環境省の令和５年度
「令和の里海づくり」モデル事業で作成しました

mob通信 6
2023年秋号

素晴らしき今日を
あなたとともに

NPO GAYAMOBA Conservation Society
賀谷藻場保全

発行
NPO法人賀谷藻場保全会

秋の藻場モニタリング

モニタリングポイント③④⑤白子崎⑥⑦中ん瀬⑧おかん島ではわずかながらもシワヤハズの仲間が観られます。

㊽観音もたれ天然場では、カジメが再び消滅しました。㊳馬捨て場㉜クジラ瀬㊽観音もたれに在る防御枠の中で育てているカジメも元気がなく、生き生きしているとは言えない状況です。

今年の夏の対馬も、例年に比べて暑かったのですが、海の中で何が起こっているのかは計り知れません。

㊽観音もたれのカジメは消滅

昨年投入したカジメも元気がない

９月から新たな試みとして、温度と照度のデータロガーを㊽に設置しました（㊳馬捨て場と㊽観音もたれ二箇所に入れる予定）。データロガーとは、自動的にデータを計測して記録していく機械です。このデータロガーを水中に設置することで水温や照度の変化を365日計測することができます。㊽観音もたれでのカジメの再生と消失と環境の関係を調べられればと思います。

新たなデータとして、海底湧水の採水も行いました。やってみると、採取日によって量や塩分濃度が異なるようです。採水モニターツアーも試行中です。

㊽観音もたれ　ロガーを設置

海底湧水採水も試行錯誤

高校生実習受け入れ

８月29日、東京の私立武蔵高校の高校１年生５名が、対馬に実習で来島し、賀谷藻場に来てくれました。

まずは植林地を案内したところ、生徒さんたちは「藻場保全の取り組み紹介なのになぜ森なのだろう？」と不思議そうな反応でした。

現地で、森と海のつながり（海底湧水を活発にする事と藻場の関係性）を解説したところ、「そうだったのか！」と双方の循環について体感できたようでした。

植林地の見学風景

最先端の漁業装備を見学

その後、当会メンバーの原田竜徳さんの漁船21孝漁丸に乗船。この船は最新の機器を搭載した漁船で、生徒さんたちは見たことのない機器に興味津々でした。

船のレーダーの見方を学ぶ

漁船の匂いと音を体感

お昼を挟んで、対馬の漁業や、藻場保全のことについて話しました。生徒さんからは「現役の漁師さんから直接お話を聞けて、とても勉強になった」といった感想がありました。今年度下半期も、今回のように、教育活動を積極的に展開していきたいと思います。

ヌスビトハギの植栽

植林地での新しい取り組みとして、ヌスビトハギとケヤブハギという植物を植栽を行いました。これらの植物は、絶滅危惧種であるツシマウラボシシジミという蝶の幼虫のエサになります。

対馬市役所自然共生課では、保護活動として、上記の植物の栽培や植栽、生息地保全を行っています。同課になにか取り組みに協力できないか相談したところ、一般でも植栽を行えるとのことだったため、当会の植林地と、会員それぞれの庭や畑に植えることにしました。

植栽したヌスビドハギ

ツシマウラボシシジミ

写真提供　対馬博物館 谷尾氏

当日は、自然共生課の皆さんにご指導いただきました。植栽作業をしていると、なんと、すでに自生しているヌスビトハギが見つかりました！

これまで植林地では植えた苗木にだけ目が行きやみくもに下草刈りをしていましたが、土中環境の改善や植生にも気を付けて、今年春に植えたユズの植林地では「風の草刈り」と呼ばれる方法を試しています。

植栽風景

自生していたヌスビドハギ